水をいっぱい入れなさい

ヨハネによる福音書　２：１－１１

司祭　ヨハネ 井田　泉

2025 年 1 月 19 日
顕現後第２主日

聖光教会にて

「三日目に、ガリラヤのカナで婚礼があって、イエスの母がそこにいた。イエスも、その弟子たちも婚礼に招かれた。」

ヨハネ 2:1-2

ガリラヤのカナで結婚式がありました。カナはナザレの北のほうの村です。イエスの母マリアは先に行って婚礼の準備をしていたのかもしれません。そしてイエスも、イエスの弟子たちも招かれて、その婚礼に出かけました。結婚する二人を祝福するのが目的です。

当時の婚礼の宴は何日にもわたって行われたそうです。村中の人が参加しました。婚礼は大きな、また大切な事柄です。ところが、その婚礼の宴にとって欠かせないぶどう酒が足りなくなったことに、マリアは気づきました。そのことがあらわになれば、宴は興ざめとなり、結婚した二人もその家族も恥ずかしい思いをすることになるでしょう。マリアはとても心配して、何とかならないものかと、イエスに言いました。

「ぶどう酒がなくなりました。」2:3

それに対してイエスは母マリアに言われました。

「婦人よ、わたしとどんなかかわりがあるのです。」2:4

イエスの返事はあまりに冷たい気がします。続けてこう言いました。

「わたしの時はまだ来ていません。」

イエスが言われた「わたしの時」とは何でしょうか。これは

特別な意味を持っています。それは、イエスの受難の時、十字架の時を指しています。ぶどう酒は「血」の象徴です。イエスにぶどう酒を求めるというのは、イエスに対して血を求めること、つまり死を求めることです。そのようにイエスは、自分の命が、言い換えれば自分の死が求められていることを、このとき強く感じられたのです。その時はいずれ来ます。世の罪を除くために（ヨハネ 1:29）血を流して死ぬその時は、必ず来ます。けれども今は、まだその時ではない。

「わたしの時はまだ来ていません。」

このイエスの言葉の意味を、マリアがすぐに悟ったというわけではないでしょう。けれどもイエスの語調と態度に、マリアはただならぬものを感じたに違いありません。マリアは失望せず、急がず、イエスを信頼します。マリアはその思いを持って召し使いたちに言いました。

「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください。」

2:5

「そこには、ユダヤ人が清めに用いる石の水がめが六つ置いてあった。いずれも二ないし三メトレテス入りのものである。」

2:6

「二ないし三メトレテス」。1 メトレテスは約 40 リットルとのことですから、大体 80 リットルないし 120 リットルの容量。高さ、幅、1 メートルにもなる大きな水がめです。それは清めに

用いるものだと言われています。外出から帰ったとき、また食事の前に、ユダヤ人は清めのために手を洗いました。「神の前に汚れを清める」という信仰的意味がありました。その大きな水がめが六つもそこに置いてあった。これはその家代々の信仰的熱心を示しているようです。けれども水が入っていなかった。

イエスは召し使いたちに、**「水がめに水をいっぱい入れなさい」**（2:7）と、言われました。召し使いたちは、マリアが頼んだとおり、イエスが言うとおりに水がめの縁まで水を満たしました。

イエスは、**「さあ、それをくんで宴会の世話役のところへ持って行きなさい」**（2:8）と言われました。召し使いたちは、イエスに言われたとおりに、それを運んで行きました。

ここでちょっと興味深いのは、日本語の訳でははっきりしにくいのですが、ギリシア語で見てみると、イエスの頼みと召し使いの行動は、まったく同じ言葉が使われていることです。イエスが「水を満たしなさい」と言うと、召し使いたちは「水を満たした」。イエスが「持って行きなさい」と言うと「持って行った」。これが直訳です。召し使いたちはほんとうに、マリアが頼んだとおりに、イエスの言われるとおりに行動したのです。

「世話役はぶどう酒に変わった水の味見をした。このぶどう酒がどこから来たのか、水をくんだ召し使いたちは知っていたが、世話役は知らなかったので、花婿を呼んで、言った。

『だれでも初めに良いぶどう酒を出し、酔いがまわったころに劣ったものを出すものですが、あなたは良いぶどう酒を今まで取って置かれました。』」2:9-10

このようにして、イエスは冷淡な態度を取るかに見えて、実はこの婚礼の宴に必要なぶどう酒を、しかも極上のぶどう酒を用意してくださったのです。ただ奇跡が起こったというのではない。わたしたちが見つめたいのは、婚礼に集まった人たちに対するマリアの真心とイエスへの信頼です。そして召し使いたちのイエスへの従順です。

ここでわたしたちのことを考えてみます。あの婚礼において、ぶどう酒がなくなってしまうという大きな心配、困難がありました。わたしたちも、またわたしたちの教会も、心配、困難、不足を抱えていないでしょうか。イエスにそれを訴えたとして、すぐに解決してくださらないかもしれない。しかしイエスは**「水がめに水をいっぱい入れなさい」**と言われるのです。

あの水がめのことを考えてみます。清めのための水がめが六つもあった。これは、神の前に自分を清めるためのもので、それが六つもあるというのは、一見信仰の熱心さを示しているようです。立派な形があり備えがあります。ところが、その中は空っぽか、わずかしか水が入っていない。これは、信仰の形は

あるが、心がない、内実が乏しい、ということではないでしょうか。

わたしたちはどうでしょうか。わたしたちの信仰生活。形はあったとして、内実はどうか。

例えば、今わたしたちはここで礼拝をしています。礼拝堂があり、式文があります。必要な形は整えられています。けれどもここで問うてみます。この礼拝堂は祈りに満ちているか。祈祷書の言葉を唱えるとき、わたしたちの心は神への祈りに満ちているか。

「水がめに水をいっぱい入れなさい」とイエスは言われます。

この礼拝堂を祈りで満たしなさい。礼拝が始まる前から、ここに聖霊が満ちてくださるように祈り求めなさい。式文に従って言葉を唱えるとき、神を愛し求める祈りを満たしなさい。

あの婚礼の場所にイエスがおられたように、ここにイエスがおられます。イエスがわたしたちのために、心を砕いていてくださいます。

あの召し使いたちのように、イエスが言われたらそのとおりにする。わたしたちも自分の信仰生活、教会生活、礼拝、また礼拝堂という水がめに、神への愛と真心をいっぱい注ぎ入れたい。祈りを注ぎ込んで満たしたい。聖霊が満ちてくださるように祈りましょう。

いつの間にか、水がめの水は極上のぶどう酒に変わっていました。世話役は驚き、婚礼の参加者は喜び、そして結婚した二人は祝福に満たされました。神への感謝と賛美がその場を包んでいます。その祝福がわたしたちを包んでくださいますように。

「このぶどう酒がどこから来たのか、水をくんだ召し使いたちは知っていた。」

このぶどう酒は、イエスから来たのです。そしてマリアの真心から出た心配と、イエスにゆだね従うことへの決意、そして召し使いたちの奉仕が、そこに用いられたのです。

祈ります。

神さま、主イエスはカナの婚礼を祝福して、必要なぶどう酒を備えてくださいました。わたしたちはしばしば困難、不足を心配し失望します。けれども、主イエスが「水がめに水をいっぱい入れなさい」と言われたように、わたしたちも自分の信仰生活に、礼拝に、あなたへの真心と愛と祈りとをいっぱいに注がせてください。そうしてわたしたちが思ってもみなかった大きな祝福に共にあずかるようにしてください。時至って十字架にかけられて、わたしたちのためにご自分の命を与えてくださった主のみ名によってお願いいたします。アーメン